

歌仙 『もののふの』の巻

真奈 捌

発句 もののふの落ちしてふ徑笹子鳴く

笑 三冬

脇 霸天の歌か止まぬ風

真奈 初冬

第三 嵐のち晴の人形活き活きと

丹仙 雑

四 そくそくとして迫る義太夫

悦子 雑

五 大屋根に手を掛けむとす葛紅葉

梶 晩秋

六 月時を待つしづむ四阿

重陽 三秋

ウ 今年酒打ち上げ祝ふ輪にありて

素蘭 晩秋

一 幼馴染の島人(しまんちゅ)をふと

笑 雑

二 カラカラと笑ふ素数のやうな歯の

真奈 雑

三 割切れぬ身に君は眩しき

丹仙 雑

四 ママからのたんと献金贈与税

悦子 雑

五 月は蚊遣りに燻さるるまま

梶 三夏

六 夕風の山の煙突高すぎて

重陽 晩夏

七 油の壺にひそむ盗賊

素蘭 雑

八 珍客に五右衛門風呂を沸かす役

笑 雑

九 某三世の裔と申さる

真奈 雑

十 黄昏の花は若木に囲まれて

丹仙 晩春

十一 シヤムの子猫の寢息すやすや

悦子 晩春

ナオ

一 春シヨール光の糸で織り上げぬ

梶 三春

二 虚空仰げば Aurora の帯

重陽 雑

三 Madonna に青大将が手を伸ばし

素蘭 雑

四 縄れもつれつ岩陰に消ゆ

笑 雑

五 さしかかる冬のトンネル遠汽笛

真奈 三冬

六 夜の底までひと色の雪

丹仙 三冬

七 たましひはトラビスチヌへ導かれ

笑 雑

八 シャンパン蔵の鍵を落す

梶 雑

九 おめでたの王子はされど賞金王

重陽 雑

十 紙面賑はす禁断の恋

素蘭 雑

十一 月も居て「ゴシップガール」見ているよ

悦子 三秋

十二 チェンジなる語のそぞろうそ寒

真奈 晩秋

ナウ

一 仕分けして御破算とせむ秋の霜

丹仙 晩秋

二 須臾を耀く泡沫の夢

笑 雑

三 ただ風になりたしと君駆け抜けて

梶 雑

四 Boys be ambitious! 音吐朗々

重陽 雑

五 牧神の笛ちりちりと花の午後

素蘭 晩春

六 ニンフ微笑む麗らかな森

悦子 三春

平成二十一年十一月二十日 起首

平成二十一年十二月二十九日 満尾